

先輩に
続け！

～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～ 第7期生募集説明会

➤ トビタテ！留学JAPAN とはー

- ◇ 学生の実践的な体験（ボランティア活動やインターンシップ）を含む海外留学を後押しするために、文部科学省と日本学生支援機構が2020年まで設けた期間限定の奨学金制度です。
- ◇ 4つのコースがあり、それぞれに2段階（書面審査・面接審査）の選考があります。
- ◇ 採用されると、奨学金（返済不要）が支給されます。

➤ 第7期生に採用されると、留学時期はー

- 2017年8月19日～2018年3月31日の間に開始される、28日以上2年以内の留学計画が対象です！常磐大学の派遣留学制度と組み合わせで応募することも可能です！

➤ 第7期生の募集時期はー

募集期間： 2016年12月1日 ～ 2017年3月3日
学内応募締切（厳守）： 2017年2月24日（金）

<文系学生が応募できるコース>

- **新興国コース** (80名)
経済成長が期待される新興国において、ビジネスを視野に、学修、研究やインターンシップ、フィールドワーク等の実践活動を行う留学
- **世界トップレベル大学等コース** (100名)
諸外国におけるトップレベルの大学の正規課程で学修し、さらに研究やインターンシップを行う留学
- **多様性人材コース** (100名)
教育、福祉、観光、国際交流、国際協力、文化・芸術、メディア・報道、等、様々な分野で活躍することを目的に経験を積む留学

興味があれば、
必ず参加を！

第7期応募説明会： 1月16日（月）、18日（水）

場所：国際センターQ101教室（Q棟1F）

時間：お昼休み 12:15～12:50 ※参加できない方は個別対応します！

第6期応募学生による留学計画発表会にも是非参加してください！

1月10日（火）18時～（国際センターQ101教室）



「トビタテ！留学 JAPAN」って何？ と、思われるみなさん！

➤ 「トビタテ！留学 JAPAN」の特徴ー

- ◇ 海外留学を通してこんな“夢”を実現したいー強い思いと情熱さえあれば応募が可能。採用されると、奨学金（返済不要）が支給されます。

奨学金の内容は、

- ① 渡航費として、100,000円（アジア地域）もしくは200,000円（アジア以外）
- ② 生活費として、月額120,000円～200,000円（滞在する国や都市の規模によって異なる。例えば、アメリカやカナダの中規模都市は月額160,000円、アジアや途上国は120,000円～140,000円）
- ③ 現地での授業料が、年間で最大300,000円

- ◇ 出資企業が参画する官民一体の「グローバル人材コミュニティ」に参加。このネットワークは卒業後も続きます。

TOKIWAの先輩に続こう！

第1期生 長谷川福子さん（大学院人間科学研究科博士課程3年）

留学期間： 2014年9月～2015年8月

コース： 世界トップレベル大学等コース

留学先： （アメリカ）カリフォルニア大学デイビス校エクステンションで、英語プログラムに約5ヶ月間参加。英語力を高めた後、カリフォルニア州サクラメント市のNGOで3ヶ月間ボランティア活動（DVや児童虐待被害を受けた母子の支援）、その後フロリダ国際大学に移り、心理学研究室の訪問研究員として、“うずら”のひなを使った心理学実験に携わり帰国しました！「世界との距離が一気に縮まった」と話します。



第2期生 木下夏穂さん（国際学部英米語学科4年）

留学期間： 2015年8月～2016年3月

コース： 多様性人材コース

留学先： （タイ）タイ北部チェンマイ・ラジャバット大学への交換留学制度を利用し、留学前半は同大学の国際学部で、様々な授業を英語で受講。英語力強化を図りながら、タイ語会話も習得。2016年1月からはチェンライ市に移動し、山岳民族の子どもたちへの教育支援のボランティア活動に従事。山岳民族の子どもたちへの教育支援に携わりながら、日本の子どもたちと手作り絵本で交流を行う「子ども絵本プロジェクト」を始動させました。

第3期生 長山達見さん（国際学部英米語学科2016年3月卒業）

留学期間： 2015年8月～2016年3月

コース： 多様性人材コース

留学先： （タイ+ペルー）世界で活躍できる日本語教師になることを目指し留学を計画。前半4ヶ月は、タイのチェンマイ・ラジャバット大学で交換留学生として国際学部で授業を受けながら、日本語学科のTAを体験。さらに日本語を学ぶ学生の協力を得て「Nippon 縁 Joy」グループ活動を立ち上げ、日本語学習者のトレンドをWEBで発信。後半2ヶ月間は、日系社会での日本語教育に触れるためペルーに移動。リマ市の日本語学校でアシスタントとして活動し、さらにクスコやポリビア・ラパス市の日本語学校も訪問。「人財育成」への関心も高まりました。

